

わたしと看護 Vol.03

頭頸・肝胆膵内科 4年目



患者・家族の想いを支えよう！

患者・家族の想いを支えよう！

私は今、頭頸・肝胆膵内科で働いています。頭頸科で行う喉頭摘出術後は声が出せなくなる患者さんがおられます。声はどうしても残して、放射線治療や化学療法を選択する方もいます。あるいは、治療はしたいと思っても怖くて何を選択したらいいかわからない患者さんもいます。中には喉頭摘出術をして永久気管孔を作ることによって、それまでしていた仕事が出来なくなる可能性もあり、手術をうけるかどうか最後まで悩みながらも、手術をすることを決めた患者さんが多くいます。

看護をする上で、患者・家族にとって何が一番大切なことなのか、各々の価値観を大切にしながら、その想いを支えることが大切だと感じます。

患者さんは入院中、治療の選択や症状の出現などたくさんのストレスにさらされます。その中で患者さんがより良い意思決定ができるよう、これからも支援していきたいと思えます。



独立行政法人国立病院機構

九州がんセンター

National Hospital Organization Kyushu Cancer Center

看護部